

地域住民の健康意識を高めるために、 大きな効果を期待しています。

内科・小児科のクリニックとして、埼玉県北本市と近隣エリアに住む人々の健康を40年以上も守り続ける「安里医院」。2016年9月に新たに院長として就任した安里満信院長に、「待合くん」導入の経緯や使い方、そしてその効果について伺った。



安里医院
安里満信院長

父親から医院を引き継ぎ 新たな地域医療に取り組む

安里院長は医大を卒業後、救急救命センターに10年以上務め、「安里医院」に来たのは2016年9月のこと。先代のお父様からこの医院を引き継ぐ形で院長に就任したという。「院長就任の話を契機に、2015年から医院全体のリニューアルに取り組んでおり、そこに患者さんへの広報活動と言う視点から『待合くん』の導入も含まれていました。当院は父が開業し

続ける医療費削減に少しでも貢献できるようなクリニックを運営していきたいというのが私の思いです」。

「待合くん」の導入で、 待ち時間に対するクレームが激減

リニューアル前の安里医院の待合室にテレビモニターはなく、多くの患者さんは待ち時間の間、本や雑誌を読んで過ごしていたという。「そうした環境ですから、待ち時間に対するイライラがたまって受付にクレームが入ることも少なくありませんでした。特に冬の時期になると来院する患者さんも増えますので、ますます待ち時間が長引いてしまうという状況でした」と安里院長。それが「待合くん」を導入したことで待ち時間に対するクレームは大きく減ったと話す。「待ち時間そのものは以前とあまり変わらない状態でしたが、『待合くん』で放映されている番組を見ることで、患者さんの『待たされている』という感覚が和らいだのだと思います」。そもそも「待合くん」を知ったきっかけは知人からの紹介だったという。「『こんなサービスがあるよ』と言われて興味をもったのです。豊富なコンテンツから自由に番組を選んで放映できるということ、さらに基本番組を日経新聞グループの「日経BPマーケティング社」から提供されていることが、導入する際に

大きな安心感につながりました」。

早期発見・早期治療・予防の 重要性を人々へ周知する

同院では、「待合くん」の基本番組だけでなく、オリジナルの番組も制作しその効果も出始めている。「私は救急救命センターに運ばれてくる患者さんを診て、その多くの人が普段から健康をあまり意識しておらず、また、病気になっても病院に行かないということを知り、早期発見、早期治療、そして予防の大切さを痛感しました。だからこそ、当院では従来型の病気になって来院した患者さんを診るというだけでなく、特定健診や予防接種、そしてさまざまな病気の早期発見に大きな期待ができる超音波検査などを実施していることを、オリジナル番組として『待合くん』で放映することが大切だと思っています」と安里院長。今後は「ポスターやパンフレット・ホームページなどのツールとも組み合わせ、地域住民の健康意識を高めていきたい」と語った。



(自院オリジナル番組)

てからもうすぐ45年が経とうとしておりますが、当時からずっと内科・小児科として0歳の赤ちゃんから100歳近いお年寄りまで地域に密着した医療に取り組んできました。こうした地域医療を引き続き行っていくと同時に、予防接種や特定健診の予防医療の充実をはかり、日本の膨らみ



(安里医院)